

家畜衛生情報誌

『 一 支 国 』

2012. 秋号



↑一面のコスモス畑（勝本町立石東触）

壱岐振興局農林水産部 壱岐家畜保健衛生所

〒811-5734 長崎県壱岐市芦辺町国分本村触1385-1 TEL : (0920)45-3031

E-mail : s13230@pref.nagasaki.lg.jp

FAX : (0920)45-3386

～Website～

<http://www.n-nourin.jp/ah/agrilink/hukyuu/iki/kakuka/3iseika.html>

鳥インフルエンザ発生予察

インフルエンザウイルスが動く時期になりました。今年は特にアジア各国での高病原性鳥インフルエンザの発生が顕著で、大部分の国で発生が確認されているほか、中国、台湾、香港では昨年比に比べて件数も増加しています。

専門家；鳥取大学附属鳥由来人獣共通感染症疫学研究センター、伊藤壽啓氏によると、**今年度の発生リスクは昨年よりも高い**とのこと。予想される侵入経路は、シベリアから中国を経由したルートが考えられており、平成24年度上半期に中国で高病原性鳥インフルエンザの発生が確認されている（23年度同時期の発生はなし）ことから、国内での発生リスクが高くなると指摘しています。

渡り鳥の飛翔ルートは3通り考えられています。

- ①シベリア→日本
- ②シベリア→中国→日本
- ③シベリア→中国→韓国→日本

家さん飼育者の方は、鳥インフルエンザ予防のため、防鳥ネットの点検・補修等、飼養衛生管理基準の遵守をお願いします。



鳥インフルエンザ防疫作業演習

平成24年9月26日、鳥インフルエンザが発生した場合に備え、家畜保健衛生所を発生農場と想定した防疫実務演習を実施しました。

参加者は杵岐振興局の職員47名です。普段は家さんとは全く関係のない部署の職員でも、非常事態に円滑な防疫活動ができるよう、現地集合後の全体の流れを確認し、防護服の着脱、生きた鶏を使った捕鳥、消毒等の実際の作業を体験しました。



↑ 捕鳥練習



↑ 鶏舎内での作業風景



↑ 退場時の全身消毒

農場の全戸巡回が終了しました

口蹄疫、鳥インフルエンザをはじめとする家畜の疾病予防には飼養衛生管理基準を遵守した飼育管理が重要となっていることから、平成23年度から管内の全ての畜産農家を対象とした農場の立入を行なっています。

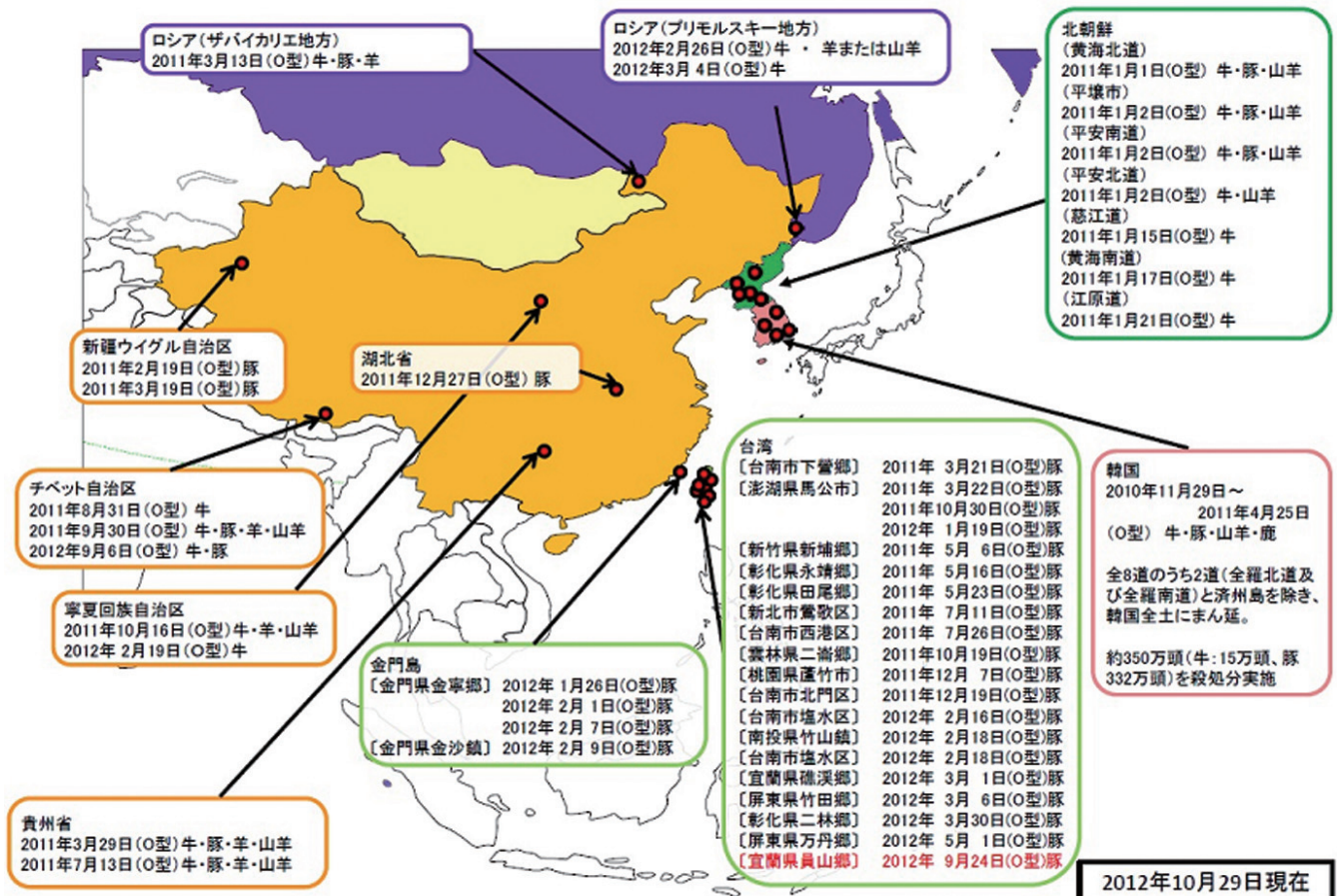
7月から9月にかけて、農業共済組合が実施している畜舎消毒に同行する等して当所職員が農場に立ち入り、『飼養衛生管理基準の遵守状況』の確認を行いました。重点項目については以下のとおりです（巡回戸数 866戸（平成24年9月末））。

	遵守率 (%)
○靴底を消毒できる設備がある（踏込消毒槽等）	66.2 %
○車両を消毒できる設備がある（消石灰帯等）	62.4 %
○農場に出入りする人や車両を記録している	100 %
○定期的に畜舎や周りの消毒をしている	100 %
○異常発見時には早期通報を心がけている	100 %



なお、今年もロシア、中国、台湾で口蹄疫の発生がみられていますが、最近では平成24年9月24日に台湾東北部の養豚場での発生が報告されました。今後も引き続き、衛生対策の強化をお願いします。

中国、香港、台湾、韓国、モンゴル、ロシアにおける口蹄疫の発生状況（2011年1月以降の発生）



牛RSウイルス病講習会に参加して

9月14日、長崎県獣医師会杵岐支部の主催による講習会『牛RSウイルス感染症に対抗する農場管理』が一支国博物館で開催されました。一般の農家さんも聴講し、消毒薬のジェット煙霧器の実演や懇親会も含めた有意義な会となりました。

講師は(株)微生物化学研究所の函城悦司先生、北海道十勝更別村獣医師会の高橋英二先生で、話題提供として当所からも管内の牛RSウイルス病の現状について講演しました。以下、函城先生の講演内容の一部をご紹介します。

～農場での事故率低減を目指して～

①ワクチン接種の適期とワクチンの種類の検討

若齢での多発には妊娠中の母牛へのワクチン接種（移行抗体）が有効

②栄養不足の解消

母牛の妊娠時からの適切な栄養管理

代用乳の補給

栄養状態に合わせた離乳

③下痢から肺炎への波及防止

腹冷え防止（断熱マット、敷料補充、すきま風防止）

下痢5混ワクチンの接種

④体調不良・異常牛の早期発見・治療

重篤化する前に治療すれば回復も早い



～ワクチンの効果を阻害する要因 **ワクチン接種の前に改善しましょう**～

①発熱、下痢等をしている

②栄養状態が悪い、虚弱である

③輸送によるストレスを受けている

④密飼い状態である

⑤衛生状態が悪い

⑥移行抗体（母牛からもらった抗体）が高い

（移行抗体は3～4か月で子牛の体から消失します）



～牛RSウイルス病とは～

牛RSウイルスによって起こる、発熱と呼吸器症状を主な症状とする急性伝染病です。寒い時期に発生が多く、年齢に関係なく発生します。外部からの導入牛や、導入牛と接触した牛から発生し、伝播が速いため集団発生が起こりやすいです。発症した牛の頭部から背中にかけて、皮下気腫が認められることがあります。

当所における診断では、臨床所見、剖検所見と中央家畜保健衛生所検査課での血清学的検査、PCR（遺伝子検査）、ウイルス分離等の結果を総合して判断しています。

現場後代検定取得交配へ御協力を

平成24年度第2回目の現場後代検定取得交配（試験種付け）が始まります。吉岐地区での対象牛は、吉岐産の『**勇氣（ゆうき）**』号です。

交配頭数は30頭、交配期間は11月15日～12月30日です。

なお、試験種付けを行った場合は補助金が交付されますので、詳しくは家畜保健衛生所へお問い合わせ下さい。

☆「勇氣」号のプロフィール☆

生年月日：平成22年10月20日生

生産地：吉岐市郷ノ浦町有安触

生産者：竹富 光博さん

血統：安秀165—牛若丸—平茂勝

*受精卵移植による産子です

沼津出身です
(静岡県ではありません)



動物愛護フェスタ2012

今年も動物愛護フェスタが9月22日に開催されました。当日は好天に恵まれ、来場者も150人を超す盛況ぶりでした。ミニ動物園や愛犬の健康相談、しつけ方教室など盛りだくさんの内容でした。ミニ動物園では対州馬の乗馬体験もあり、子供達の嬉しそうな笑顔が印象的でした。

『国家の偉大さや道徳的水準は、その国で動物がどう扱われているかによって判断することができる』と、かのガンジーが遺した様に、動物愛護の精神はとても重要です。

愛護精神の高揚に微力ながら協力したいと思います。



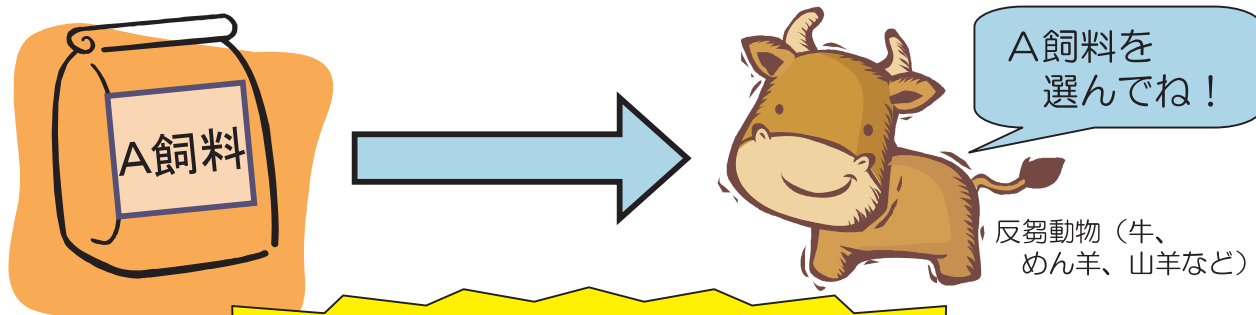
そのエサ、適正なものですか？

1、牛に給与できるのは、A飼料だけです！

- ・牛（反芻動物）に与えても良いのは『A飼料』の表示のある飼料です。
- ・A飼料は他の飼料と混ざらないように保管してください（指針では専用の包装、容器を用い、専用の場所に保管することと規定されています）。

牛海綿状脳症（BSE）予防のため、牛（反芻動物）に与えても良い飼料は『反芻動物用飼料への動物由来たん白質の混入防止に関するガイドライン』で定められています。

- 牛やめん羊等の反芻動物に給与しても良い飼料 : A飼料
- それ以外の飼料 : B飼料



内容が不明な飼料や薬は、絶対に家畜に与えないようにしましょう！

2、飼料添加剤について・・・

抗生物質や駆虫薬等の飼料添加剤は使用禁止期間等の基準を守って使い、使った後は記録に残すことが家畜の飼養者に義務付けられています。



記録する事項

- ①薬品名、②対象動物、③使用期間、④使用量、⑤出荷可能日 など

*正しく使用して、記録を残しておきましょう

獣医師の発行した「動物用医薬品指示書」（処方せん）や、「出荷制限期間指示書」がある場合は、使用実績を記載した上で使用記帳に代えることができますので、帳簿と一緒に保管して下さい。



口蹄疫の侵入防止のために

～外国の肉製品は、基本的に持込めません～

現在でも、アジアやヨーロッパをはじめ、世界の大部分の地域で口蹄疫、鳥インフルエンザ等の家畜の悪性伝染病が発生しています。日本に持込める肉製品は、伝染病のおそれの少ない一部の地域で生産され、かつ検査証明書がついているものだけです。

ハム等の肉製品、偶蹄類動物の肉、稲わらが輸入可能な地域

【ヨーロッパ地域】

フィンランド、スウェーデン、ノルウェー、ポーランド、ハンガリー、ドイツ、デンマーク、イタリア（サルジニア島を除く）、サンマリノ、リヒテンシュタイン、スイス、オランダ、ベルギー、フランス、オーストリア、スペイン、アイルランド、アイスランド、英国（グレートブリテン及び北アイルランド）

【南北アメリカ地域】

カナダ、アメリカ（アメリカ大陸部分、ハワイ諸島、グアム島に限る）、メキシコ、ベリーズ、グアテマラ、ホンジュラス、エルサルバドル、ニカラグア、コスタリカ、パナマ、ドミニカ共和国、チリ

【オセアニア地域】

北マリアナ諸島、ニュージーランド、バヌアツ共和国、ニューカレドニア、オーストラリア

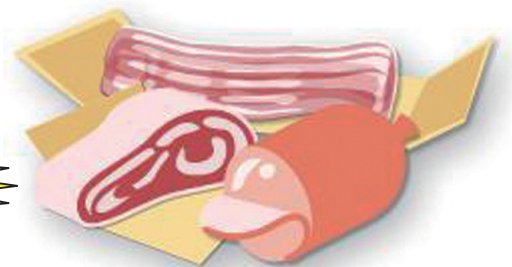
ハム等の肉製品の輸入が可能な地域

シンガポール、ルーマニア、スロベニア、クロアチア、ボスニア・ヘルツェゴビナ

※上記以外の地域は悪性伝染病の発生があるか、防疫体制が十分に整備されていると認められないため、輸入ができません。

※輸入可能な地域でも、疾病の発生状況等により例外があります。詳細は動物検疫所のHPでご確認ください。

海外旅行のお土産には、ご注意を！



スタッフが見た長崎全共ウラ話

第10回長崎全共では、大会に先立ち、牛の飼料や管理道具等の牛舎への搬入がありました。作業の進め方は各県様々で、搬入資材は大型トラックから荷下ろし場、スロープ、仮置き場を経て、仮置き場から牛舎へは軽トラックや台車で運搬されました。

大方の県は仮置き場まで人力や一輪車で運搬していましたが、中でも目を引いたのが、運搬のために大型トラックの荷台へ軽トラックごと乗入っていたJA壱岐市1支所のT指導員でした。日頃鍛えたドライブテクニックを遺憾なく発揮し、全国一の機動性を誇っていました。

また、大会中はマットや踏込槽の消毒液の補充・交換をしました。中には消毒薬を持参している県もあり、飼養衛生管理基準の遵守意識の高さを垣間見た気がしました。ちなみに、長崎県の踏込槽は汚れるのも早く、履物の消毒がきちんとできているものと思われました。

ともあれ、出品者の方々をはじめ、全共に携わった関係者の方々、大変お疲れ様でした。

トラックからの資材搬出の光景→

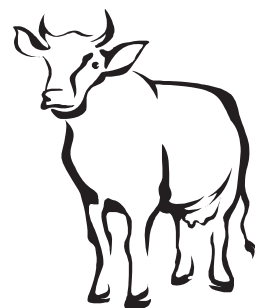


死亡牛の適正処理をお願いします!!!

家畜の死体は産業廃棄物であり、適切な処理が義務付けられています。したがって、自家所有の土地であっても家畜伝染病の発生時以外は焼却・埋却はできません。

加えて、24か月齢以上の牛では、『牛海綿状脳症対策特別措置法（平成14年6月14日法律第70号）』により、牛海綿状脳症（BSE）検査が義務付けられています。

これまで、県内でも不法な焼埋却事例が発生していますので、そのようなことがない様に、適正処理をお願いします。



つぶやき

日に日に寒さが増してきました。特に朝晩の空気は冷たく感じますが、こんな時こそ呼吸器病（かぜ）予防のため、毎朝起きてすぐに窓を開け、換気を徹底しています（でも眠気は何をやっても消えず...）。先日の講習会でも疾病予防には栄養の充足が重要であるとお話がありました。かぜ予防にも野菜の栄養素はもってこいです。私は初めて壱岐産の野菜を食べた時、鮮度や味の濃さに感動しました。これからの寒い時期も、美味しい野菜を沢山食べて乗り切ろうと思います。

